

愛知登文会ニュース創刊号発刊に際して

■愛知登文会が平成23年6月に設立

私たちの廻りには残したい風景の一つである建物がたくさんありましたが、様々な原因で消えつつあります。このような時期において、文化庁が登録文化財の制度を作ったのは平成8年のことでした。15年経過して平成23年3月末で登録数が全国で8,331件となり、愛知県は330件で全国では6番目になります。登録はされたものの、古い建物を良好な状態で維持することは、維持費を始め、大変困難な状況で、悩みを抱えている状況であります。このような状況のもとに、大阪では平成17年9月会員相互の情報の交換、親睦と文化財の普及などを目的として、登録文化財所有者の会が設立され、活動を行っております。かねてから文化庁、愛知県教育委員会からも示唆があり、平成22年3月に愛知県登録文化財所有者の会設立準備会が開かれ、23年6月26日には設立総会が開催され、設立の運びとなりました。

■文化庁の補助事業の実施

また、設立に合わせて、活動を確固たるものにしていくため、文化庁の補助事業である平成23年度文化芸術振興費補助金「地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に応募し、助成金交付の通知を受けました。補助事業の内容は、登録有形文化財建造物の保存・活

愛知県国登録有形文化財
建造物所有者の会
会長 長谷川 良夫



用の促進活動を通じて県民の文化的資質の向上を図り、次の3つの事業を柱に実施しています。

- (1) 文化財所有者の意識改革のための事業
 - ①所有者アンケート調査
 - ②文化財建造物保存・活用講座
 - ③文化財建造物保存・活用シンポジウム
 - ④「愛知登文会」情報発信
- (2) こども文化財体験事業
- (3) 観光ボランティアガイドとの連携事業
 - ①ガイド教材の作成
 - ②観光ガイドの育成

9月1日に第1回の愛知登文会の役員会が開催され、愛知登文会で実施予定していた明治村での研修会も上記の事業として実施することになりました。

■愛知登文会ニュースの発刊と今後の展開

愛知登文会ニュースはその事業の実施状況をお伝えしていきます。愛知登文会は文化庁の補助事業を受けることによって、立ち揚げ初年度から、大きな事業を実施することが出来ました。この事業は計画では3ヶ年の継続事業で実施し、その後は各団体が自立して実施することが望まれています。そのためには今後、文化財所有者の方々への参加や文化庁、愛知県、市町村そして民間企業のご支援、ご指導を必要としており、お願いする次第です。

1 文化財所有者アンケート調査の結果報告

今回のアンケート調査の目的は、所有者の文化財建造物への保存・活用意識や公開の程度、問題点・課題等の把握するとともに、愛知登文会への期待を受けとめようと実施しました。

調査の対象は愛知県の登録有形文化財所有者全員 103 件（個人：31 件、法人・団体：72 件）に行いました。その回収結果は下記のとおりです。ご協力ありがとうございました。

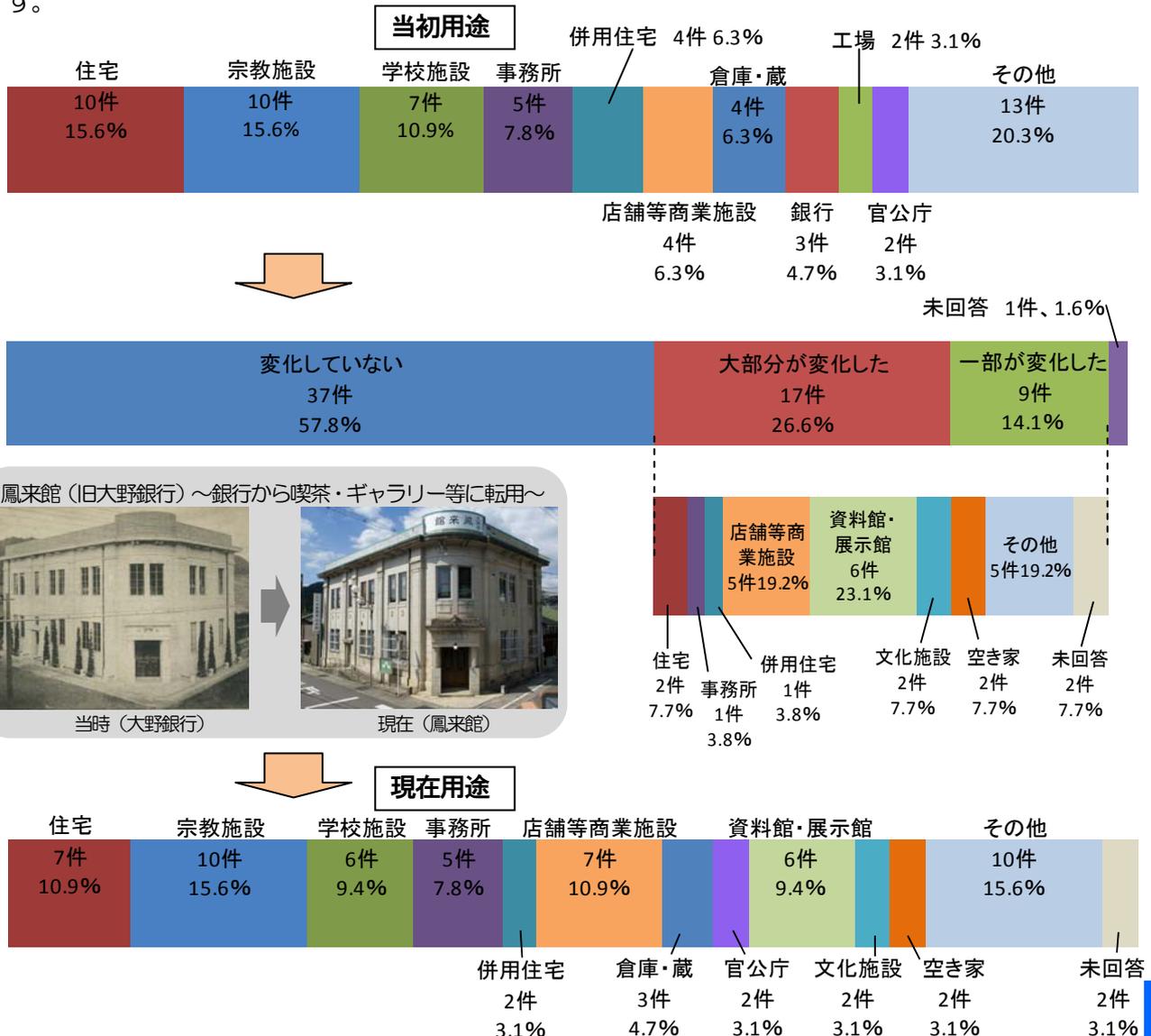
調査票の配布・回収状況（H23.10～11）

	発送数	有効発送数※ ①	回収数 ②	回収率 ②/①
全体	103件	102件	64件	62.8%
個人	31件	30件	16件	53.3%
法人・団体	72件	72件	48件	66.7%

※有効発送数：発送数から住所不明等の理由により宅配業者から返品されたものを除いた数。

1. 建てられた当初用途と現在用途の変化

回答者の余裕建造物の用途は多様性に富んでいますが、当初用途は住宅や宗教施設が多いものの、現在用途では約4割が用途変更されて、資料館・展示館を含む文化施設や商業施設として転用されています。

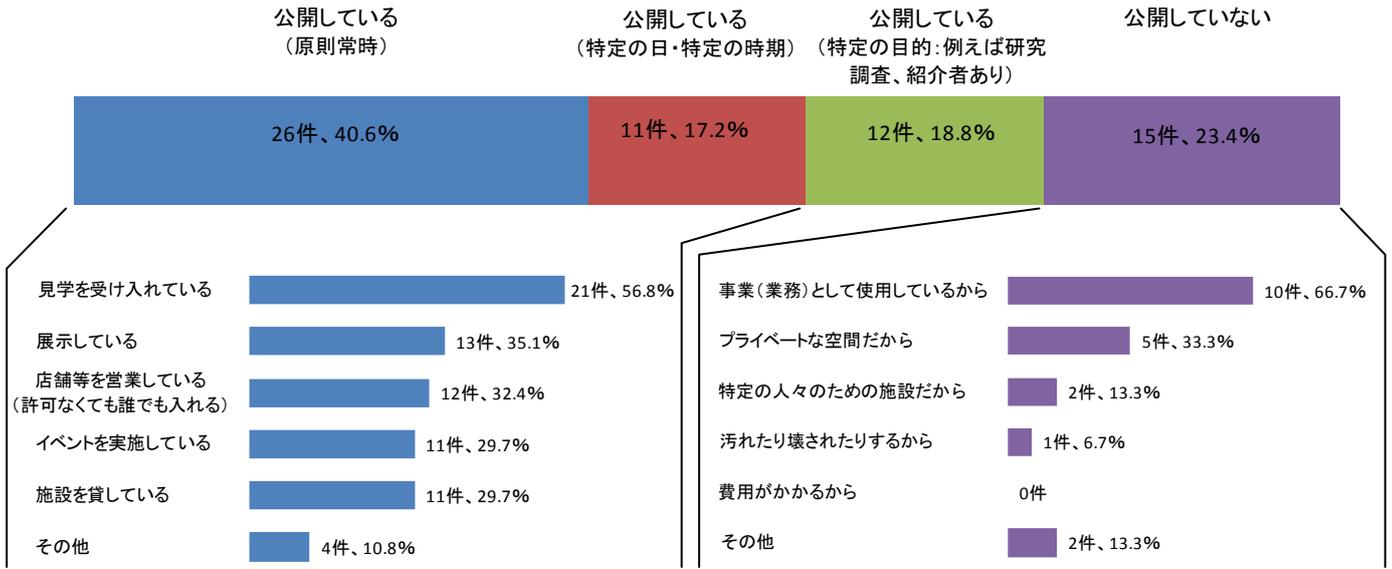


2 公開状況について

■現状では3/4が何らかの公開をしています

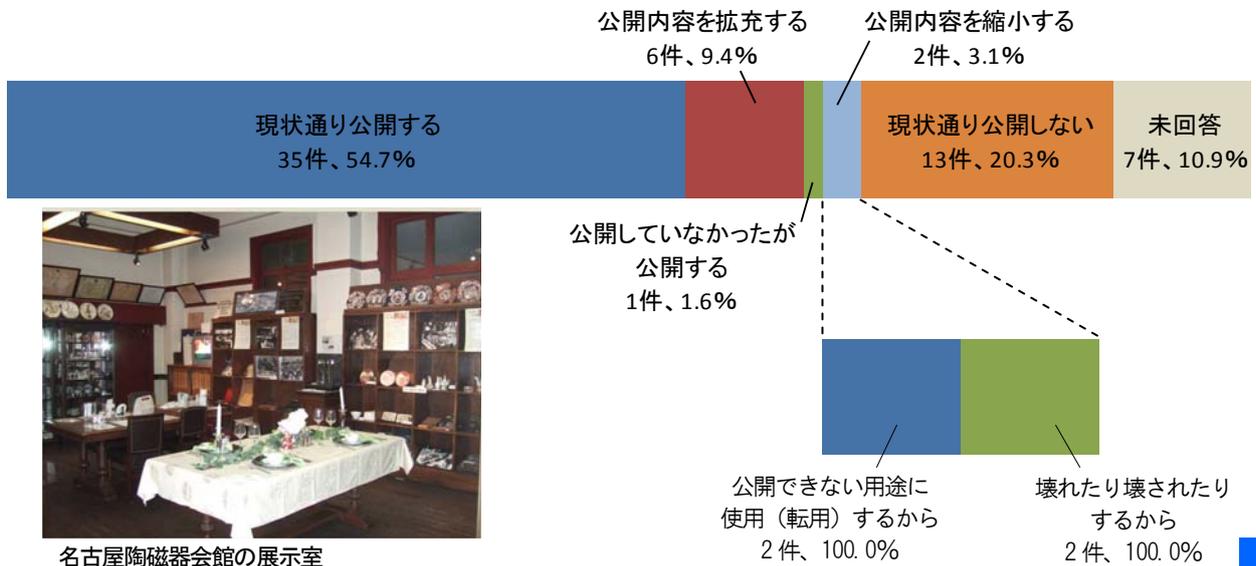
「原則常時公開している」が26件（全体の40.6%）と最も多く、「特定の日や特定の時期に公開している」を合わせると、全体の約6割近くが一般に公開されている状況です。公開の内容は、「見学の受け入れ」が最も多く、次いで「展示」となっています。

一方、「公開していない」は15件（全体の23.4%）あり、その理由は、「事業（業務）として使用しているから」が半数を、「プライベートな空間だから」が1/3を占めています。



■今後は公開内容が拡充されていきます

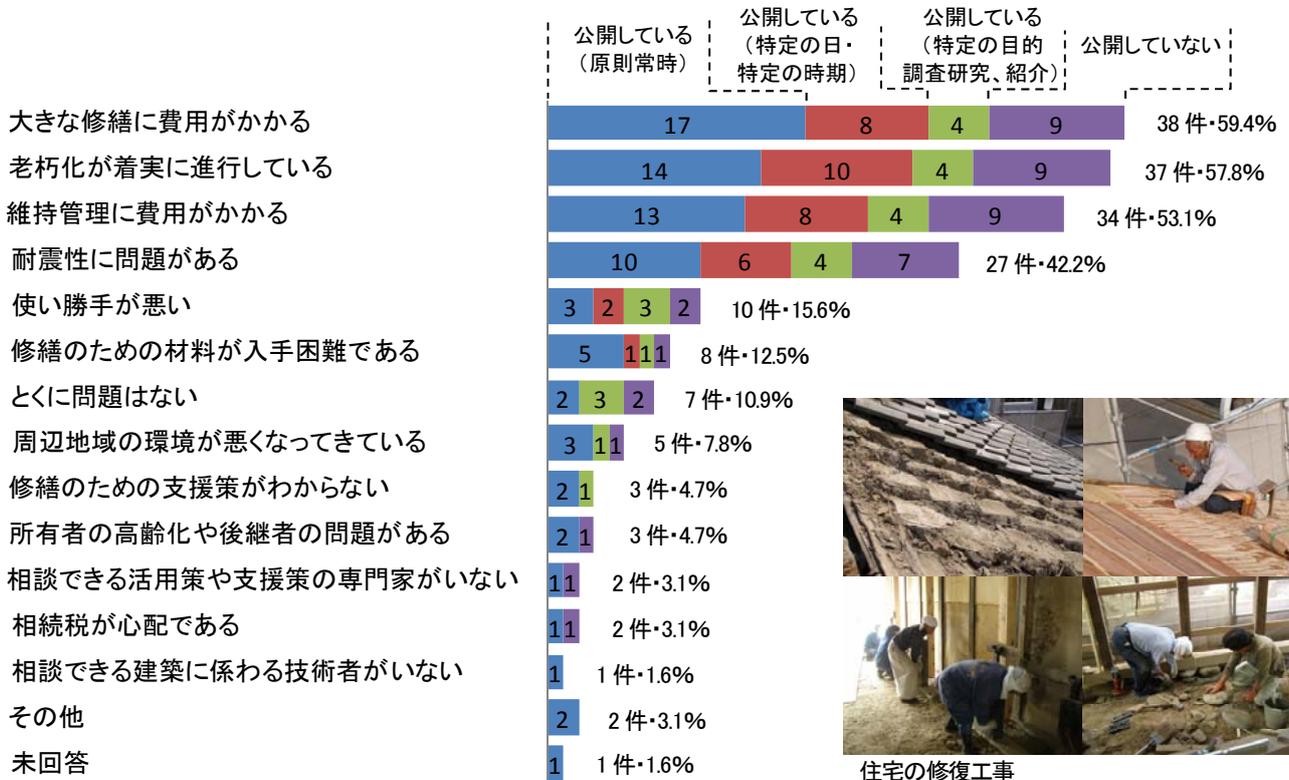
現在公開している施設は49件ありますが、これら施設の今後の公開については、「現状通り公開する」が35件（全体の54.7%）、「公開内容を拡充する」が6件（全体の9.4%）あり、「公開内容を縮小する」という回答は2件ありました。一方、現在公開していない施設15件のうち、1件は「公開する」としています。「公開内容を縮小する」という回答は2件あり、「公開できない用途に使用（転用）する」「壊れたり壊されたりする」という理由でした。



名古屋陶磁器会館の展示室

3 登録有形文化財建造物の維持・管理について

「大きな修繕に費用がかかる」、「老朽化が着実に進行している」、「維持管理に費用がかかる」「耐震性に問題がある」が四大問題となっています。費用負担や建物としての安全性が問われています。これらは公開・非公開の状況に拘わらず、共通の問題となっています。



住宅の修復工事

4 大規模修繕について（ここ10年）

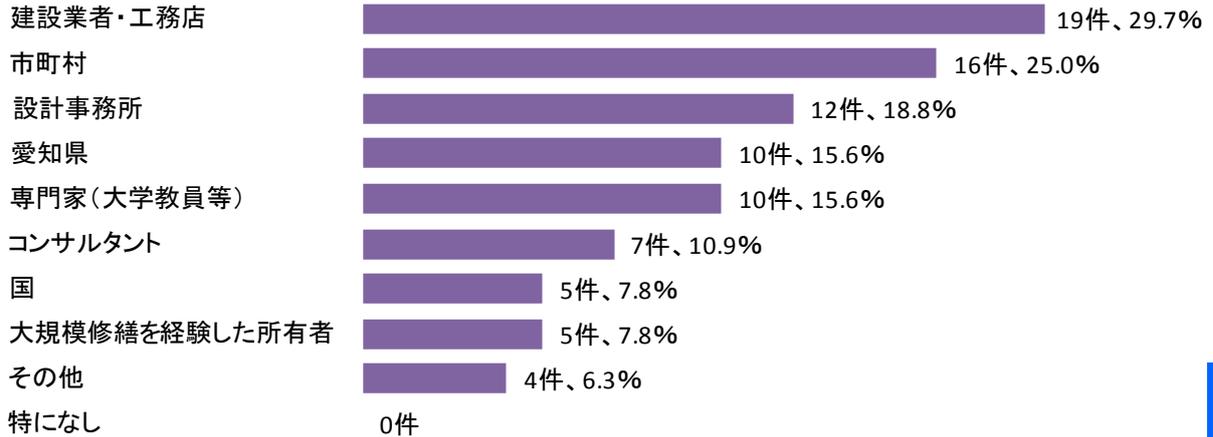
■大規模修繕の実施状況

「ある」がちょうど半数を占めます。屋根の葺き替え、外壁の修理、耐震補強工事が中心です。



■外部の相談相手

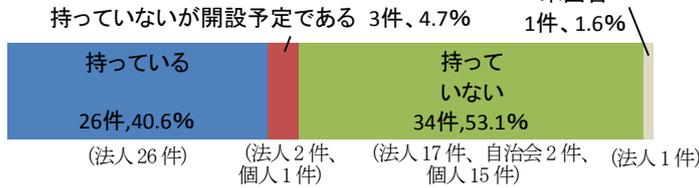
「建設業者・工務店」が19件と最も多く、次いで「市町村」16件、「設計事務所」12件、「愛知県」10件、「専門家（大学教員等）」10件となっています。



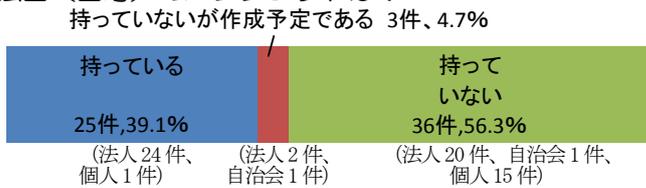
5 登録有形文化財建造物の広報について

広報活動について見ると、独自（自身）のホームページやパンフレットを持っているのは4割程度、他の広報手段や観光コース組み入れは半数強という結果で、もっと充実していく必要があります。またどうしても個人の方々の情報発信力が弱いといえます。

■独自（自身）のホームページは？



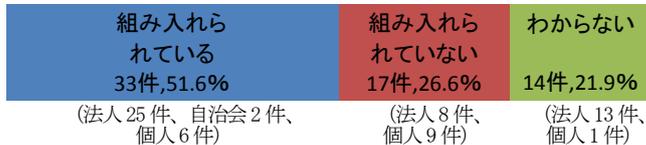
■独自（自身）のパンフレットは？



■市町村や観光協会のホームページやパンフレットで紹介されているか？



■観光コースに組み入れられているか？



6 愛知登文会に期待する活動

「愛知登文会独自のホームページや広報誌で文化財建造物を紹介」が 29 件（全体の 45.3%）と最も多く、次いで「登録文化財建造物の保存・活用の参考になる研究会や講座の開催」「国の登録文化財建造物の存在をPRするためのイベント」が多く、文化財建造物の周知や保存・活用に参考になる講座や見学会等の開催に対する期待が高いといえます。



2 文化財建造物保存・活用講座

文化財建造物の所有者がその所有建造物の社会的価値を認識して、保存・活用に向けた意識改革や取組みを促進していく事業の一環で、所有者の文化財建造物に対する学習・情報交換の場を提供するものとして文化財建造物保存・活用講座を開催してきました。

その経緯については下記の通りです。

凡例： は座学、 は現地視察

回数	月/日	テーマ	講師陣等
第1回	11月9日 (水曜日) 愛知県立大 サテライト	登録文化財建造物の 保存・活用について考える	28名
		①愛知の登録文化財建造物の状況と特徴	愛知県教育委員会文化財保護室 教育主事 牧 謙治氏
		②登録文化財建造物の持つ価値と継承する 意義	名古屋大学名誉教授・博物館明治 村顧問 飯田喜四郎氏
		③実践事例：小栗家住宅（半田）の保存・ 活用するにあたっての建築的視点	名古屋工業大学大学院教授 麓 和善氏
		④実践事例：小栗家住宅（半田）の保存・ 活用するにあたっての所有者的視点	所有者 小栗宏次氏
第2回	12月3日 (土曜日) 明治村	事例研究と県内現地視察（尾張方面／明治村）	25名
		①岡崎信用金庫（旧岡崎銀行本店）の保存・活 用状況と地域貢献について	岡崎信用金庫資料館 織田 義隆 氏
		②名古屋陶磁器会館の現状について	(財)名古屋陶磁器会館 理事長 佐地 秀明 氏
		③登録文化財 寂光院本堂・随求堂（ずいぐ どう） 平成大修理工事について	文化庁承認技術指導者 長谷川 良夫 氏
		④県内現地視察（尾張方面）：明治村視察 登録文化財60棟	明治村 石川新太郎氏 同 柳澤 宏江氏
第3回	12月15日 (木曜日) 現地	県外現地視察（関西方面）	8名
			大阪府登録文化財所有者の会
		①畑田家住宅（羽曳野市）	会長 畑田耕一氏
		②阿倍野長屋（大阪市阿倍野区）	副会長 寺田信正氏
第4回	2月27日 (月曜日) 現地	県外現地視察（関東方面）	5名
			NPOたいとう歴史都市研究会
		市田邸（登録文化財）（東京都台東区）	副理事長 椎原 晶子氏
		カヤハ珈琲（東京都台東区）	
		旧平櫛田中邸（東京都台東区）	
		間間間（東京都台東区）	
第5回	3月3日 (土曜日) 愛知県立大 サテライト	文化財建造物の保存活用にむけた市民団体の 取組み	20名
		①赤煉瓦倶楽部・半田	副理事長 永田創一氏
		②犬山城下町を守る会	副理事長 渡邊昭美氏
		③白壁アカデミア（名古屋市東区）	世話人 牛田信彦氏
		④ディスカッション	井澤知旦氏（コーディネーター）
第6回	3月7日 (水) 現地	県内現地視察（三河方面）	14名
		①鳳来館（旧大野銀行）（新城市）	大野区長（郷土史家）
		②大野の町並み（新城市）	菅沼 昭博氏

県外現地視察（関西方面・関東方面）

■大阪登文会と阿倍野長屋と畑田家住宅

平成 23 年 12 月に大阪登文会を訪問し、その取組みと同時に、「阿倍野長屋・寺西家住宅」（阿倍野区）および「畑田家住宅」（羽曳野市）を見学させていただきました。大阪登文会の力量を感じた見学会でした。

《住民の理解と支持》

建造物の保存・活用は講演会型から見学会やイベント等の施設活用型へと転換するとともに情報発信に力を入れ、建造物の存在を周知しながら多くの理解者・支援者を拡大していることです。畑田家住宅活用保存会では賛同者 350 人以上を会員として組織化され、一般公開・フォーラムや畑田塾を通じて子供達と親に文化財建造物を見て学ぶ場を提供しています。阿倍野長屋も飲食店として、多くの人々が来店することで登録文化財長屋の存在を知ることになり、また1万人以上が集まる「どっぴり昭和町」という手づくりイベントを開催しています。

《保存コストの捻出》

まさに文化財建造物を保存し、次代に継承していくために苦勞をされていることです。阿倍野長屋は地下鉄の昭和町駅から徒歩すぐという好立地条件から、飲食店やマンションの需要があり、長屋改修型飲食店とマンション建設の収益比較をすると、前者の方が、投資コストが1ケタも少ないうえに、収益性が2倍もあることから、長屋が取り壊されることなく存続しています。寺西家住宅は現在も住まいとして利用されています。日常的に利用されていない文化財建造物の保存コスト（維持管理費）が問題になります。このコストをどう生み出すのが存続の要であると考えました。今後は所有者が高齢化していくなかで相続が発生したり、空家化することで、消滅するリスクも高まりそうです。

《大阪登文会の活動と運営》

大阪登文会は登録件数が多くなるにつれて会員の人数も増加しています。会の活動は「登録文化財の活用と情報発信を通じた普及啓発」に置き、会費収入で運営されていますが、必要に応じて助成金を得て事業を実施しています。会は会員が情報を持ち合い、共有する場であり、また会員の保存活用活動の支援の場でもあります。優れたリーダーのもとで活動を展開されていることを感じました。



阿倍野長屋は飲食店として活用されている（文中の写真は畑田邸）

■たいとう歴史都市研究会と谷中（東京都台東区）

平成 24 年 2 月に谷中を視察しました。谷中は JR 上野駅の北側で JR 日暮里駅の西側に位置しており、周辺には東京芸術大学や上野動物園、谷中霊園があります。

《4つの文化的建造物の保存と活用》

【市田邸/明治 40 年築】現在、登録有形文化財建造物になっています。1 階の座敷部分を公開し、芸術文化活動の拠点としているほか、1 階の一部と 2 階は芸大の学生らのシェア居住として活用されています。また芸術文化活動の拠点として展覧会等が開催されています。

【カヤ/珈琲/大正 5 年築】昭和 13 年から平成 18 年まで続き、地元で親しまれた喫茶店でしたが、たいとう歴史都市研究会が借り受けて、一部を自身の事務所とするとともに、新しい運営者により「カヤ/珈琲」を復活させています。「カヤ/珈琲」では、内装など一部は改修されているものの、外観や喫茶店の家具・食器はそのまま残され、往時のメニューも再現されています。

【旧平櫛田中邸アトリエ/大正 8 年築】近代彫刻を開拓した彫刻家平櫛田中氏が 50 年暮らした住宅兼アトリエです。通常は非公開ですが、清掃や修繕を行いながら、テッサン会や展覧会、コンサートなどにより、公開を行っています。

【間間間/大正 8 年築】普段は住宅として使用されているほか、1 階の店舗部分は曜日ごとに尺八作りワークショップやカフェ・バーなどに活用され、まちの交流拠点となっています。

《谷中のまち歩き》

今回、日暮里駅から上野駅に向かって谷中のまちなかを散策しましたが、まちなかには今回紹介した伝統的建物以外にも、歩いているだけで趣きのある路地や和洋折衷の建物が視界に飛び込んできました。また、幸田露伴の代表作「五重塔」のモデルとなった天王寺（五重塔は消失）、国の重要文化財である旧東京音楽学校奏楽堂などの見所も多いので、半日でも時間が足りないくらいでした。まち歩きを目的に訪れるのであれば 1 日かけてゆっくり散策できるエリアです。



地元で親しまれたカヤ/珈琲の再現（文中の写真は市田邸）

3 情報コーナー

1 次回の活動報告予告

この間、愛知登文会では、上記の活動以外でも、次のような事業にも取り組んでいます。

- ① ども文化財体験事業……小中学生のころから文化財建造物に親しむことで、地域への愛着を高め、文化財建造物の保存・活用やまちづくりの将来の協力者を育てていくものです。具体的には、現場を訪問して、所有者や専門家から当該建造物を解説してもらうとともに、茶文化（茶道）等の伝統文化体験をセットにして、その価値を肌身で体感してもらう試みです。
- ② 観光ボランティアガイド育成事業……地域で活動する観光ボランティアガイドの方々に、文化財建造物に関する教材提供と学習機会を提供することで、来訪者に対して登録文化財等の地域文化の紹介を行う人材を育成する事業です。ここでは、文化財建造物を見ながら、専門家や所有者からの解説を受けます。これらの事業については、次の愛知登文会ニュース（NO.2）でお知らせいたします。

2 これからの活動スケジュール

- ① 文化財建造物保存・活用講座（無料 非会員の方も大歓迎）

■ 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）15階

回数	月/日	テーマ	講師陣等
第7回	3月21日 (水曜日) 愛知県立大 サテライト 午後2時～ 4時すぎ	文化財所有者の取組みと自治体の支援策	
		①登録文化財建造物 柴田家住宅所有者	柴田正康氏（清須市西枇杷島）
		②自治体の支援策Ⅰ	名古屋市住宅都市局歴史まちづくり室
		③自治体の支援策Ⅱ	犬山市教育部歴史まちづくり課
		④意見交換と質疑応答	井澤知旦氏（コーディネーター）

- ② 愛知県登録文化財建造物保存・活用シンポジウム（無料 どなたでも参加できます）

■ 会場は名古屋市中区栄3-15-33 栄ガスビル4階401会議室

■ 矢場町駅6番出口から徒歩2分、栄駅サカエチカ6番出口から徒歩5分

	月/日	テーマ	講師陣等
総括	3月29日 (木) 栄ガスビル 4階401 午後2時～ 5時	愛知県登録文化財建造物保存・活用 シンポジウム	
		①平成23年度事業の取組み報告	愛知登文会事務局
		②関西事例報告 阿倍野長屋と寺西家住宅	所有者 寺西興一氏
		③関東事例報告 たいとう歴史都市研究会	管理団体 椎原晶子氏
		④ディスカッション ・コーディネーター ・パネリスト	小栗宏次氏（小栗家住宅所有者） 寺西興一氏（前掲） 椎原晶子氏（前掲） 長谷川良夫氏（愛知登文会会長） 牧謙治氏（愛知県文化財保護室）

編集後記

愛知登文会が発足して9ヶ月足らずですが、地域の宝である登録文化財の保存・活用を図るため、所有者等自ら学んでいく講演会や視察、広く県民に知っていただくために、ども文化財体験や観光ガイドの育成といった事業を展開しています。これらの事業は文化庁の補助を受けて、進めていますが、年度の後半になってエンジンがかかってきました。というのも、お互いの信頼関係がないと事業を実施できないからです。意義ある事業を実施していきますので、よろしく願いいたします。

愛知登文会ニュース 創刊号

発行日：平成24年3月9日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目10番3号
(財)名古屋陶磁器会館内

TEL 052-935-7841 FAX 052-935-9592

E-mail potter@nagoya-toujikaikan.org

URL <http://www.aichi-tobunkai.org>